

古典A 伊勢物語 あぢれ山① 唱和用

みんなと組を組わせて、本文を認めるものにしよう。

本文	現代語訳
拙、男、片田舎に住みけり。	拙、男が、片田舎に住んでた。
男、「留仕くつじ。」と云	男が、「(都へ)留仕えをくつじ。」と云つて
別れ惜しみし行まけるもあじ、	別れを惜しんで出かけて行ったけれども、
三年来たのければ、	三年、帰って来なかったのだ。
待ちわびたりけるじ、	待ちたひれたじと云
いとねんじろに言ひける人じ、	とても熱心に言い留めて来た人じ、
「今夜あはむ。」	「今夜結婚しよと云」
と契りたりけるじ、	と約束してしまつたその日じ、
この男来たりけり。	この男が帰って来た。
「この戸開け給く。」	「この戸を開けてください。」
とたたまければ、	と云つてただいたければと云
開けで、	開けないで、
歌をなむよみて出だしたりける。	歌をよんで差し出した。
あらたまの年の三年を待ちわびて	三年もの間待ちたくたびれて
ただ今宵こそ新枕すれ	ちやうど今夜、新枕をかますのですよ
と云ひ出だしたりければ、	とよんで差し出したと云

古典A 伊勢物語 あぢきね② 唱和用

みんなで声を合わせて、本文を認めるようにしよう。

本文	現代語訳
あぢきねまら観写年を経て	長年にわたって
わがせしがごとくはしみせよ	私がしたように、新たな夫を愛しなさい。
と言ひて、いなおとしければ、	と言つて、立ち去らなうしたので、
女、	女は、
あぢきね引けど引かねど	あなたが私の心を引いても引かなくても
昔より心は君に寄りにしものを	昔から私の心はあなたに寄り添っていたのに
と言ひければ、	と詠んだけれども、
男帰りにけり。	男は帰ってしまった。
女、いと悲しくて、	女は、とても悲しくて、
しりに立ちて追ひ行けど、	あとに立ちて追いかけて行ったが、
え追ひつかで、	追いつけなくて、
清水のある所に伏しにけり。	清水がある所にうつ伏してしまった。
そじなりける君に、	そこにあった君に、
指の血して書まつけける。	指から流れる血で書まつけた歌。
相思はで離れぬる人をとどめかね	思いが通はず離れてしまった人を引き止められずに
わが身は今ぞ消え果てぬめる	私の身は今にも消え果ててしまいそうです
と書きて、	と書いて、
そじに伏したつらになりけり。	その場で命が絶えてしまった。